

平成28年度 学校評価シート 【日高養護学校】

1 目指す学校像

子どもたちの学が楽しさや、生きる喜びを育てる教育を通じて一人一人の目標を達成する。
 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校
 ③ 地域の人々が振り返ってくれる学校 ④ 教職員が意気に感じて仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

(1) 基本的な生活習慣を身につけ (2) 能力・適正に応じた教育活動の充実 (3) 社会参加に向けての適応力
 (4) 安全で安心できる学校づくり (5) よりよく生きる力の育成

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題	
児童生徒一人一人の能力、適性に応じた教育活動の充実(知・徳・体)	児童生徒個々の能力を最大限伸ばすため、指導内容や指導方法の評価改善を続ける必要がある。	(1) 個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく一人一人に応じた指導内容、指導方法の創意工夫を行う。	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の内容を充実させる。 ・個別の指導計画を活用した授業づくり、授業改善に取り組む。	・個別の指導計画に基づいた授業づくりに取り組んだ。今後は、より内容を充実させるとともに、日々の授業に反映させていく必要がある。	B	「個別の指導計画」に基づく指導を充実させることにより、子どもたちが日々目標をもって学校生活を過ごすことができるのではないが。	・実態把握に基づき個々の課題を明確にし、具体的な目標及び手立てを設定する。 (キャリア発達段階表の活用) ・日々の授業に反映させ、評価改善を図る。
		(2) タブレット端末を活用した指導実践と教材教具の開発により、子どもたちがわかる授業、主体的に取り組むことができる授業づくりを行う。	・タブレット端末の活用方法を整理し、学校内での共有を図る。 ・夏季休業中に講師を招聘し、ICT活用に関する教職員の研修を実施する。 ・ICT支援員を活用することによって、ICT機器の活用方法について学び、授業づくりに活かす。	・児童生徒の実態に応じた、タブレット端末等ICT機器を活用した指導場面が増えた。 ・8月15日に高松 崇 NPO支援機器普及促進協会理事長を講師として、子どもたちの発達段階や障害の特性に応じたICT機器の活用法を学んだ。 ・ICT支援員を活用し、活用しやすい環境設定を行った。	B	タブレット端末は、子ども自身が有益だと感じられるかどうかが大切である。 子どもたちにとって有益なものがあるならば、施設でも購入を検討したい。	・タブレット端末の活用について、様々な可能性を追求する。 ・活用方法を整理し、情報発信する。
		(3) 地域の資源を活用した社会体験学習や交流活動を積極的に実施し、生きる力を育成する。	・地域と連携して、村内の環境整備に取り組む。	・デイサービスセンター日高との交流活動、役場の花壇整備、学校近隣への竹炭配付を行った。	B	これからもどんだん校外に出て、活躍してほしい。	・活動の幅を広げ、より積極的に取り組む。
教員の専門性の向上(知・徳)	・作業学習の質の向上を図るなど、教育課程の見直しが必要である。 ・教員個々の専門性を高め、授業力を向上させることが必要である。	(1) 「教育課程検討委員会」を設置し、カリキュラムマネジメントの視点で学校全体の構造や取組を評価し、改善充実を図る。	・知的障害特別支援学校におけるアクティブラーニングの視点で、日々の授業実践を見直す。 ・教育課程検討委員会で検討し、改善につなげる。	・取り組み開始時期が遅れたが、「教育課程検討委員会」を開催し、様々な実態のある児童生徒に対応できるように教育課程の見直しを行った。	C	カリキュラムマネジメントは、現在の取組を整理、検証することである。特別支援学校ではしっかりとした取組を行っているので、しっかりと整理してほしい。	・早期から計画的に取り組む、カリキュラムマネジメントの視点で教育課程全般の見直しを行う。
		(2) キャリア教育の視点を取り入れた授業研究を通して、児童生徒のキャリア発達を支援する。	・日高養護学校キャリア発達研究を制作する。 ・全寄宿舎生を対象とした学舎懇談において発達段階表を活用する。 ・学部研において児童生徒のキャリア発達を確認する。	・日高養護学校発達段階表を2016年度版として改訂し、学習指導案に添付するようになった。	B	子どもの発達段階をどうとらえ、どう将来を見通して指導していくかが大切である。	・日高養護学校キャリア発達段階表に基づき子どもの課題を明確にし、授業内容に反映させる。 ・研究授業の学習指導案にはキャリア発達段階表を添付する。
		(3) 各学部で各教科等を合わせた指導を中心に、年間1回以上の研究授業を実施し、日々の授業改善に努めるとともに、校内研修を充実する。	・中学部、高等部ともに、昨年度検討してきた改善点と今後の方向性を基に取り組む。 ・外部講師に助言をいただきながら現在の作業学習について検討する。 ・中学部高等部の系統性のある作業学習について検討する。 ・研究授業を実施する。	・植草学園大学 田所明房教授を講師として招聘 ・中学部において作業学習の研究授業を行い、外部講師から指導助言をいただき、改善に取り組んだ。 ・高等部においても、作業学習に対して外部講師から指導助言をいただき、改善に取り組んだ。	A	外部講師を活用しての取組ができている。	・来年度の校内研修は、高等部が研究授業を行う。 ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業内容で研究授業を行う。 ・校内研修会を地域に公開する。

		(4) 外部講師を招聘してICT研修会等を実施し、授業力の向上を図る。	・夏季休業中に講師を招聘し、ICT活用に関する教職員の研修を実施する。	・夏季休業中に講師を招聘し、ICT活用に関する教職員の研修を実施した。	B	外部講師を活用しての取組ができている。しっかり授業に活かしてほしい。	B	・ICT機器を積極的に活用し、授業改善に活かす。	
進路指導の充実(知・徳)	・各学部、寄宿舎間で児童生徒の将来を見通した系統性のあるキャリア教育の構築が不十分である。	(1) キャリア発達段階表を活用した実践により、小・中・高・寄宿舎が連携のもと、一貫した系統的、組織的な指導を充実する。	・日高養護学校キャリア発達段階表を活用した学習指導案を作成する。 ・全寄宿舎生を対象とした学舎懇談において発達段階表を活用する。 ・学部研において児童生徒のキャリア発達を確認する。	・日高養護学校発達段階表を学習指導案に添付することにより、キャリア教育の視点を意識して授業づくりに取り組んだ。 ・取組としてはまだ不十分である。	B	個の取組を進めることで、小・中・高・寄宿舎の連携が深まっていくのではないかと。他学部にも責任を押し付けるのではなく、各学部でしっかり取り組んでほしい。	B	・キャリア発達段階表を活用することにより、児童生徒の高等部卒業後を見通した指導を行う。	
		(2) 個別的教育支援計画に基づく、労働、福祉等関係機関との連携により、アフターケアを充実する。	・進路先への訪問を定期的に行う。	・必要に応じて、職場等への訪問、ケース会、面談等を行うなどして個別に対応した。一般就労先との連携に課題が残る。	A	アフターケアはよくやっていると思う。その取組が、同窓会に多くの卒業生が集まる要因になっているのではないかと。	A	・個々に合った支援体制づくりと関係機関との連携強化を行う。	
		(3) 生徒、保護者の職場や施設見学、市町村関係者との進路相談会を実施し、進路に対する理解啓発を図る。	・PTA進路研修会やPTA視察研修(進路先の見学)を実施し、保護者の進路に対する意識を高める。 ・ケース会を通して、関係者間の意思統一を図る。	・保護者のニーズ調査に基づき、研修会や視察研修を行った。 ・必要に応じてケース会を行い、関係者間で連携を図ることができた。	A	より良い進路の実現に向けてよくやっている。	A	・より多くの保護者に参加してもらえるように、ニーズ調査をしっかり行い、早めに計画を立て広報する。	
家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進(徳・体)	・本校を拠点とした誰もが参加できるスポーツ活動を実施する必要がある。 ・地域との交流を積極的に進める必要がある。 ・地域と連携した防災訓練の実施が必要である。	(1) 運動、スポーツを通して、社会性や豊かな人間性をはぐくみ、共生社会の実現を目指す。	・地域のスポーツイベントに積極的に参加を促す。 ・部活動を実施する。	・ひだか茂平マラソン等様々なスポーツイベントに参加した。 ・部活動として各スポーツ大会に参加した。	A	今後も継続して取り組んでほしい。	A	・継続して各種スポーツイベントに参加する。	
		(2) 専門のスポーツ指導者によるスポーツ体験教室を実施する。	・地域における障害者スポーツ普及促進事業(夏休み・休日におけるスポーツ教室、スポーツ体験イベント)に取り組む。	・県教育委員会及び「スポーツクラブとさ」と連携し、様々なスポーツを体験したり、専門家の指導を受けたりすることができ、将来の余暇活動につながる良い機会となった。	A	続けて取り組んでほしい。	A	・スポーツ指導員によるスポーツ体験教室を、地域にも公開して実施する。	
		(3) 様々なスポーツ活動に触れる機会を設定し「総合型地域スポーツクラブ」へつなげる。				B	日高村にも「ひだか茂平クラブ」があるので、今後連携していければよい。	B	・保護者や関係者への理解啓発を行い、休日における「総合型スポーツクラブ」の利用向上を図る。
		(4) 学部、学校行事、生徒会活動やPTA事業を通して、卒業生や地域社会との交流を組織的に行う。	・「なつまつり」をはじめとする行事を実施し、卒業生や地域の方々や触れ合う機会を設ける。 ・同窓会の実施。 ・交流及び共同学習、居住地校交流を推進する。	・「なつまつり」では、卒業生や地域の方々が多参加してくれた。 ・同窓会には卒業生95名が参加し、交流を深めた。 ・交流及び共同学習は3校、居住地校交流は8校と行った。	A	伊野南中での取組は町の町内でも評価されている。日高村のイベントで「人権フェスタ」がある。日高養護学校の取組とタイアップすることはできないか。また相談したい。	A	・居住地校交流の件数を増やすために、対象となる学校の理解啓発に努める。	
		(5) 防災教育の充実と家庭、地域と連携した南海トラフ地震等の防災対策を強化する。	・様々な想定をし、年5回の避難訓練を実施する。 ・年間5回の防災教育を実施する。 ・備蓄品を活用した防災教育を実施する。 ・地域との合同訓練に向けて話し合いを行う。	・全校での防災訓練を5回、教職員対象の放水訓練を1回行った。 ・各学部で、備蓄品を活用しての炊き出し訓練を行った。 ・福祉避難所の活用に向けて関係機関との協議及び机上訓練を行った。	B	協議を重ね、福祉避難所として機能できるように詰めていく必要がある。来年度は広域避難訓練(日高村、佐川町、越知町、仁淀川町、いの町、土佐市と合同)を行う予定。	B	・様々な想定をして訓練を計画実施する。 ・福祉避難所運営計画を見直し、訓練の実施・評価・改善を行う。	
特別支援教育のセンター的機能の充実	・様々なニーズに対応するために、教育相談に関する、専門性の向上が必要であるとともに、計画的な人材育成を進める必要がある。	(1) 関係機関及び県内特別支援学校との連携による、就学前幼児をはじめ小・中学校及び高等学校等への教育相談や校内研修等の支援を充実する。	・関係機関との打ち合わせを十分行い、教育相談や校内研修を充実させる。 ・様々な研修に積極的に参加し、専門性の向上を図る。 ・自立活動充実事業を活用し、専門性の向上を図る。	・自立活動充実事業を活用し、専門家(作業療法士)を伴って地域の学校の校内研修に参加した。 ・様々な研修に積極的に参加し、専門性の向上を図る。 ・センター的機能を発揮し、地域の多様なニーズに応えることができた。	A	市町村としてはお世話になっている。そのことにより、地域の学校や市町村の子ども理解が進んだと考えている。今後ともよろしくお願ひします。	A	・よりいっそう地域のニーズに対応できるように、他の特別支援学校、特別支援教育課、教育事務所等と連携する。	
		(2) 多様化する相談に対応できるように、さらなる専門性の向上を図り支援体制を強化する。	・教育相談・心理検査実技等スキルアップ研修への参加。 ・教育相談部内で研修会を行う。	・教育相談部内で検査実技に関する研修を行い専門性の向上を図った。	B	十分な援助をしてもらっているが、専門性の向上のため学び続けることは大切である。	B	・教員の異動があっても質の高い地域支援業務ができるように、部の体制強化を図る。	